眺めても涼し 渋うちわ

山鹿来民地区 制作ピークに

山鹿市鹿本町来民（くたみ）地区で県伝統的工芸品の「渋うちわ」作りが最盛期を迎えている。職人達が柿渋を塗った和紙を用い、昔ながらの着物柄からしゃれた花柄まで次々に仕上げている。

来民地区のうちわ作りは約400年の歴史があり、大正期ごろは、四国丸亀や京都と並ぶ三大産地の一つだった。現在は2軒が作っている。

1889年創業の栗川商店では例年3～5万本の渋うちわを制作。24日は、職人の女性4人が慣れた手つきで薄い竹製の骨に和紙を貼っていた。

今春就職した田中壽桃（すもも）さん(22)は崇城大芸術学部出身。職人としては駆けだしだが、デザインの腕を買われ、山鹿灯籠踊りを漫画タッチで描いた絵などが採用された。「仕事が楽しい。今までにないものも生み出したい」と意欲満々だ。

同店5代目の栗川恭平さん(32)は「今年はウェブで人気のキャラクター『あおぱんだ』とのコラボ商品もある。祭りなどの際、ぜひ手にしてほしい」と話している。

（猿渡将樹）

栗川商店で最盛期を迎えている「渋うちわ」作り。山鹿灯籠踊りを漫画タッチで描いたものも並ぶ＝山鹿市

2023年5月30日　熊本日日新聞　P.15